

- ⑤ 慢性心不全の急性増悪と難治化に関わる要因の解明と効率的な診断・治療法の確立に関する研究 (17160601)

(留意点)

慢性心不全は、これまでの研究により交感神経系、レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系がその病態を大きく修飾することが明らかになり、その関連薬剤が心不全治療薬として使用されている。一方、医療技術の進歩と高齢者人口の増加とともに、我が国の心不全患者の基礎疾患が大きく変化しかつ慢性化した患者が増加しており、慢性心不全の治療をより効果的なものとするには心筋機能にとどまらず患者の全体像から新たに定量的指標を見だし、治療への寄与度を分析する必要に迫られている。急性増悪と難治化の要因の系統的な解明と効率的な診断・治療法の確立が望まれる。

- ⑥ 循環器疾患ハイリスク者同定のための効率的なシステムの開発に関する研究

(17160701)

(留意点)

代表的な生活習慣病である循環器疾患は、高血圧・高脂血症などの危険指標を適切にコントロールすることで予防可能である。循環器疾患ハイリスク者を効率的に同定するには、費用対効果の高いシステムを開発する必要がある。

本研究は、健康診査の各項目について最新の知見に基づき実施意義を明らかにするとともに、適正な実施対象、間隔などを検討し健康診断の効率的な実施の基礎となる知見を集積する。

8. 障害関連研究事業

(1) 障害保健福祉総合研究事業

<事業概要>

平成15年度からの「新障害者基本計画」及びその重点施策実施5か年計画（「新障害者プラン」）に基づき、障害の有無や種別などに関わりなく地域で等しく安心して暮らせるよう各種障害者施策を適切に推進することが重要な課題となっている。

このため、障害全般について、治療からリハビリテーションに至る適切なサービス、社会参加の推進、地域における生活を支援する体制等に関する研究を進め、障害保健福祉施策の効果的な展開に役立つ成果を得ることを目的とする。

<新規課題採択方針>

障害全般について、地域移行や地域生活支援に資する具体的な技術開発及び体制づくりに関する研究等を実施する。ただし、障害保健福祉総合研究において現在実施中の課題と重複する課題は原則として採択しない。

研究費の規模：1課題当たり5,000～15,000千円程度(1年当たり)

研究期間：1～3年

新規採択予定課題数：10課題程度

<公募研究課題>

- ① 障害者ケアマネジメントの効果的な実施手法及び評価に関する研究(17170101)

(留意点)

地域における実践に基づいた障害者ケアマネジメントの効果的な実施手法の開発とケアマネジメントの実施効果等を評価する研究を採択する。

なお、「障害者ケアガイドライン」を踏まえて行う研究であること。

② 在宅重度障害者に対する効果的な支援の在り方に関する研究 (17170201)

(留意点)

A L S や遷延性意識障害等重度の障害を持ちながら在宅で生活する障害者への支援について実態把握と効果的な支援の在り方を検討する研究を採択する。

③ 地域づくりと関連した効果的な地域生活支援サービス体制の在り方に関する研究

(17170301)

(留意点)

障害者の働く場づくりと地域興しの取組を結びつける等地域での先進的・独創的取組に基づく研究を採択する。

研究は、次の視点を含む利用者の選択に適切に対応できるものであること。

- ・ 自助・互助・公助からなる適切な人的サポートの活用
- ・ 身体障害者更生相談所や福祉事務所等の適切な機関支援
- ・ 生活圏における各種施設の有効な機能分化と活用
- ・ 生活援助から就業・就学準備支援、就業・就学支援等に関する必要な支援を連続的、継続的に提供する

④ 障害保健福祉施策における客観的な指標の活用に関する研究 (17170401)

(留意点)

客観的な指標を活用し障害の程度に応じた多様な支援・介護の必要性に関する評価指標を開発する研究、障害者の活動や参加に関わる阻害因子と社会福祉サービス、制度、施策との関連性の分析の視点を含んだ国際生活機能分類（ICF）の障害保健福祉施策における活用に関する研究を採択する。

⑤ 障害者の社会参加の推進に資する具体的支援機器の開発に関する研究

(17170501)

(留意点)

I T 技術活用を活用した障害の特性に応じたコミュニケーション手法や就労支援策の開発に関する研究、障害者の支援機器の開発・普及に関する促進方策の策定に関する研究を優先的に採択する。

⑥ 障害者の二次的障害予防とQ O Lの向上に関する研究

(17170601)

(留意点)

障害者の生活習慣病や褥瘡等の二次的障害の予防とQ O Lの向上に関する研究を採択する。

研究は、次の点を考慮した研究であること。

- ・ 二次的障害の有無や内容の適切な評価
- ・ 身体活動及び栄養状況の適切な評価
- ・ 生活様式の改善指導

- ・ 安全な身体運動の確保
- ・ 介入効果の客観的評価

⑦ 精神障害についての正しい知識の普及啓発法の評価とモニタリングに関する研究

(17170701)

(留意点)

地域住民、保健医療福祉関係者等が一体となって推進する精神障害に関する正しい知識の普及に関する効果的な手法の開発とその効果測定を行う研究を採択する。

⑧ 高次脳機能障害者に対する効果的な就学・就労支援手法に関する研究

(17170801)

(留意点)

「高次脳機能障害支援モデル事業」における職能訓練プログラムを踏まえ、地域における実践に基づき効果的な就学・就労支援手法の開発と評価を行う研究を採択する。研究は、次の視点を含む総合的研究であること。

- ・ 認知リハビリテーションの実施
- ・ 必要な環境調整や生活支援の内容とその必要性の時間的推移の検討
- ・ 準備訓練から就業・就学への移行時期とその判断指標の抽出
- ・ ジョブコーチの介入法の検討
- ・ 就業・就学の継続に必要な支援内容の分析

⑨ その他、障害者の保健福祉施策の企画・立案及び実施に資する研究であって、重要性及び緊急性が特に高いもの

(17170901)

(2) 感覚器障害研究事業

<事業概要>

視覚、聴覚・平衡機能等の感覚器機能の障害について、原因となる疾患の病態・発症のメカニズムの解明、発症予防、早期診断及び治療、障害を有する者に対する重症化防止、リハビリテーション及び機器等による支援等に関する研究開発を進め、感覚器障害の軽減や重症化の防止、機能の補助・代替等に資する成果を得ることを目的とする。

<新規課題採択方針>

視覚、聴覚・平衡機能領域における障害（重複障害を含む）及び日常生活上の支障をもたらす状態について、その原因となる疾患等の予防・治療及び障害の除去・軽減に資する研究開発等を実施する。ただし、感覚器障害研究において現在実施中の課題と重複する課題は原則として採択しない。

研究費の規模：1 課題当たり10,000～50,000千円程度（1年当たり）（公募課題①～③）

1 課題当たり 5,000～15,000千円程度（1年当たり）（公募課題④）

研究期間：1～3年

新規採択予定課題数：6 課題程度

<公募研究課題>

- ① 視覚障害に関する疫学的研究、予防、医療及びリハビリテーションに関する研究並びに視覚障害の要因となる疾病に関する研究 (17180101)

(留意点)

予防法、治療法等が未確立であって、今後数年間で臨床応用等成果の還元が期待できる研究を採択する。

(例) 正常眼圧緑内障の早期発見と早期治療、視力低下予防に関する効果的手法の開発に関する研究、糖尿病網膜症の早期発見のための眼底写真の評価システムの開発に関する研究 等

- ② 聴覚及び平衡機能障害に関する疫学的研究、予防、医療及びリハビリテーションに関する研究並びに聴覚・平衡機能障害の要因となる疾病に関する研究 (17180201)

(留意点)

予防法、治療法等が未確立であって、今後数年間で臨床応用等成果の還元が期待できる研究を採択する。

(例) 突発性難聴の聴力の予後判定やメニエール病の発作の予測に関する研究 等、
なお、単なる統計的な観察ではなく基本的な病態解明に焦点が絞られた研究であること。

- ③ 視覚、聴覚及び平衡機能障害並びにそれらの重複障害により廃した機能を補助・代替し、自立と社会参加を促進する機器の開発及び改良に関する研究 (17180301)

(留意点)

情報伝達技術や認知システムの開発等により、視覚、聴覚及び平衡機能障害並びにそれらの重複障害を有する者の就労拡大等を目的にコミュニケーションを支援する機器の開発及び改良に関する研究を優先して採択する。

なお、数年以内に実用化が見込まれるものであること。

- ④ 視覚、聴覚及び平衡機能障害並びにそれらの重複障害を有する者の自立と社会参加の促進方策に関する研究 (17180401)

(留意点)

安全な移動、学習法、職業能力等を飛躍的に向上させる方法の開発などにより、視覚、聴覚及び平衡機能障害並びにそれらの重複障害を有する者の自立と社会参加を促進する方策に関する研究を採択する。

なお、数年以内に問題解決の見通しが得られるものであること。

9. エイズ・肝炎・新興再興感染症研究事業

(1) エイズ対策研究事業

<事業概要>

1997年からの多剤併用療法(HAART)の導入に伴い、HIV感染症の死亡率は激減し、HIV感染者・AIDS患者を取り巻く状況は新しい局面を迎えている。また、アジア・太平洋地域においてもHIVの感染拡大が予測されており、我が国への波及阻止が重要

な課題となっている。一方、国内においてもH I V感染者・A I D S患者の報告は1984年のサーベイランス開始以来、依然として増加傾向である（平成15年のH I V感染者報告数は640件、A I D S患者報告数は336件であり、ともに過去最高）。

このような状況を踏まえ、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」の理念に基づき、また、平成8年のH I V訴訟の和解を踏まえた恒久対策の一環として、人権に配慮しつつ予防と医療の両面におけるエイズ対策研究のより一層の推進を図る必要がある。

本事業はその疾病の特殊性から常に最新の治療法の開発、治療ガイドラインの作成や、社会的側面や政策的側面も配慮した医学的・自然科学的研究等、エイズに関する基礎、臨床、社会医学、疫学等の研究を総合的に推進するとともに、エイズ対策に必要な施策を行うための研究成果を得ることを目的とする。

<新規課題採択方針>

H I V/A I D Sに関する臨床医学、基礎医学、社会医学研究、疫学研究。

研究費の規模：①及び③ 1課題当たり3,000千円～10,000千円程度（1年当たり）

②及び④ 1課題当たり10,000千円～70,000千円程度（1年当たり）

研究期間：1～3年

新規採択予定課題数：5課題程度

<公募研究課題>

① 臨床医学研究のうち次に掲げるもの

- ・エイズ拠点病院間の効果的臨床連携体制の構築に関する研究（17190101）

（留意点）

課題採択に当たっては、「H I V感染症の医療体制の整備に関する研究」報告書（エイズ予防情報ネットの厚生労働省情報に掲載（<http://api-net.jfap.or.jp/>））を踏まえて、H I V診療支援ネットワークを活用する等、現状の拠点病院間の臨床面における連携体制をより効果的に推進するための具体的方策を提言する研究を優先する。

② 基礎医学研究のうち次に掲げるもの

- ・薬剤耐性H I Vの発生機序とその制御方法に関する研究（17190201）

（留意点）

課題採択に当たっては、1997年のH A A R T治療導入後、治療状況は大幅に改善されたが、薬剤耐性やHAARTの長期使用による人体毒性が明らかになりつつあるため、薬剤耐性H I Vの発生機序に関して具体的な結果を短期間で望める研究を優先する。

③ 社会医学研究のうち次に掲げるもの

- ・個別施策層に対するH I V感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

（17190301）

（留意点）

課題採択に当たっては、これまでの個別施策層への予防対策等の研究成果を踏まえ、具体的な介入を行い、その評価並びに施策へ繋がるような提言を行える研究を優先する。

また、研究の効率性の点から、個別施策層（特に男性同性愛者）との十分な信頼関係を築くことができ、必要なデータ収集、介入等の面で協力可能なN G O等の参加する研究を優先する。

④ 疫学研究のうち次に掲げるもの

- ・ HIV 感染サーベイランスの精緻化とサーベイランスデータ応用に関する研究

(重点課題) (17190401)

(留意点)

課題採択に当たっては、日本における HIV 感染者の捕捉率の向上のための調査体制の提言並びに既存データも含むデータ解析、解釈に係る具体的な方法論、これらを踏まえ我が国のエイズ対策に対する提言を含む研究を優先する。特に、無症候性感染者の捕捉率向上のため、現在保健所等で実施している抗 HIV 抗体検査事業との連携や職場での HIV 検査実施等の新たな切り口からの方策をパイロット的に施行するもの、併せて人権に十分配慮した普及・啓発方法を提案する研究を優先する。

<備考>

なお、研究計画書の提出に当たり、以下の点も留意すること。

- ① 「7. 研究の目的、必要性及び期待される成果」につき、より具体的に把握するため、申請研究終了時に期待される成果と、研究分野の長期的な成果(目標)とを別々に示すこと。
- ② 「11. 申請者の研究歴等」につきより詳細に把握するため、以下のア及びイの項目に該当する論文3編を添付すること(各編毎に、論文(全文)の写し20部とそのPDFファイルを添付すること)。欧文のものについては日本語要旨も添付すること。
ア 申請する課題に係る分野に特に関連するもの。
イ 申請者が第一著者、もしくは主となる役割を担ったもの。後者の場合はその簡潔な理由を添付すること。

(2) 肝炎等克服緊急対策研究事業

<事業概要>

肝炎ウイルスの病態及び感染機構の解明並びに肝炎、肝硬変、肝がん等の予防及び治療法の開発等を目的とする。

<新規課題採択方針>

肝炎ウイルス等について、その病態や感染機構の解明を進めるとともに、肝炎、肝硬変、肝がん等の予防、診断及び治療法等に資する研究

研究費の規模： 課題①については、50,000～150,000千円程度、課題②～⑨については、1課題当たり10,000～50,000千円程度(全9課題1年当たり)

研究期間：3年

新規採択予定課題数：9課題程度

<公募研究課題>

- ① C型肝炎の治療とキャリアからの発症予防に関する基盤研究 (17200101)

(留意点)

課題採択にあたっては、(1)プロテオミクス解析を基盤としたC型肝炎治療薬標的分子の網羅的検索と創薬に関する研究、(2)動物モデルの開発と創薬への応用に関する研

究、(3)慢性C型肝炎に対する治療用抗体の開発に係る研究を優先する。

- | | |
|------------------------------------|------------|
| ② C型肝炎の院内感染防止に関する研究 | (17200201) |
| ③ B型及びC型肝炎の母子感染防止に関する研究 | (17200301) |
| ④ C型肝炎に対するワクチン開発に関する研究 | (17200401) |
| ⑤ 肝硬変に対する治療に関する研究 | (17200501) |
| ⑥ 輸血後肝炎の疫学的動向と治療に関する研究 | (17200601) |
| ⑦ 肝細胞がんの予後の改善に係わるサーベイランスの有効性に関する研究 | (17200701) |
| ⑧ 予後改善を目指した進行肝細胞がんの集学的治療に関する研究 | (17200801) |
| ⑨ 肝細胞がん化学療法の適応と有効性に関する研究 | (17200901) |

(3) 新興・再興感染症研究事業

<事業概要>

近年、新たにその存在が発見された感染症や既に制圧したかにみえながら再び猛威をふるいつつある感染症が世界的に注目されている。これらの感染症は、その病原体感染源、感染経路、感染力、発症機序、診断、治療法等について解明すべき点が多い。

また、日米包括経済協議の一環として、地球的展望に立った協力のための共通課題（コモン・アジェンダ）において、1996年4月に新たに追加された協力分野として「新興・再興感染症」についての研究協力が求められている。

このため、本事業は、世界保健機関、米国疾病管理センター等との研究ネットワークを構築・強化していくことにより国内外の新興・再興感染症研究を推進し、研究の向上に資するとともに、新興・再興感染症から国民の健康を守るために必要な施策を行うための研究成果を得ることを目的とする。

なお、本研究事業は、総合的かつ効果的な推進のために文部科学省、農林水産省、環境省との共同・連携を図っていくこととしている。

<新規課題採択方針>

ウイルス、細菌、寄生虫・原虫による感染症等に関する研究で新型インフルエンザ、ウエストナイル熱、アジアで流行している感染症等の国内でのまん延防止のための研究でそれらの解明、予防法、診断法、治療法、情報の収集と分析、行政対応等に関する研究を行う。

研究費の規模： 課題①～③については、100,000～200,000千円程度、課題④～⑫については、10,000～50,000千円程度（全12課題1年当たり）

研究期間：1～3年

新規採択予定課題数：12課題程度

<公募研究課題>

- ① 新型インフルエンザ到来に備えての診断、予防対策への基盤的研究(17210101)

(留意点)

課題採択にあたっては、(1)東南アジア諸国との共同研究により、アジアで分離されるウイルス株の分子遺伝学的解析及びデータベース化研究、(2) LAMP法等の迅速診断技術に関する研究、(3)ワクチン開発、パイロットスタディに係る研究を優先する。

- ② ウエストナイルウイルスの侵入に備えての診断、予防対策への基盤的研究 (17210201)
- (留意点)
課題採択にあたっては、(1)世界で流行しているウエストナイルウイルスの分子疫学的解析とデータベース化、(2)迅速診断法の確立とその普及、(3)ワクチン開発、パイロットスタディに係る研究を優先する。
- ③ アジアで流行している感染症の我が国への侵入監視の強化に関する研究 (17210301)
- (留意点)
課題採択にあたっては、アジアで流行している細菌及び原虫に起因する感染症に焦点を当て、アジア諸国との共同研究体制(分子疫学的解析、データベース化)を構築し、赤痢菌、腸チフス菌、マラリア、赤痢アメーバ等の監視体制強化のための研究を優先する。
- ④ 海外で発生した新興感染症に関する分析疫学的手法を用いた臨床研究 (17210401)
- (留意点)
課題採択にあたっては、臨床の記述疫学的手法を用いた院内感染の発生機序や、抗ウイルス薬の開発研究を優先する。
- ⑤ アジア地域との研究ネットワークの活用による多剤耐性結核の制御に関する研究 (17210501)
- ⑥ 効果的な結核対策(定期健診やBCGに関する費用対効果分析等)に関する研究 (17210601)
- ⑦ 生物テロに使用される可能性の高い細菌・ウイルスによる感染症の蔓延防止、予防、診断、治療に関する研究 (17210701)
- ⑧ 感染症の原因となる細菌、ウイルスに対するバイオセーフティ及びバイオセキュリティに関する研究 (17210801)
- (留意点)
課題採択にあたっては、SARSの実験室内感染の問題が起こってきていることから、効果的で、安全なバイオセーフティ及びバイオセキュリティ対策に関する研究を優先する。
- ⑨ インフルエンザをはじめとした、各種の予防接種の政策評価に関する分析疫学研究 (17210901)
- (留意点)
課題採択にあたっては、予防接種の対象となっている疾患に対する現行の予防接種の有効性について、分析疫学的手法を用いて検討し、予防接種政策の評価を行う研究を優先する。
- ⑩ 海外渡航者に対する予防接種の在り方に関する研究 (17211001)
- (留意点)
課題採択にあたっては、海外における在留邦人の感染症の罹患の実態調査を行うとと

もに、日本における罹患数、保菌者数などを調査するとともに、流行時に必要なワクチンの供給について提言し、欧米各地にあるトラベラーズクリニックなど予防接種が可能な場所の普及を目指した研究を優先する。

- ⑪ 施設内感染に係る赤痢アメーバ症等の原虫疾患の感染経路及び予防法の開発に関する疫学研究 (17211101)
- ⑫ 食品由来の二類感染症のリスクアセスメントモデル構築に関する研究 (17211201)

10. 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業

<事業概要>

リウマチ、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症、膠原病などの免疫アレルギー疾患は、長期にわたり著しく支障をきたすため、国民の健康上重大な問題となっている。そこでこれらの疾患について、発症原因と病態との関係を明らかにし、予防、診断及び治療法に関する新規技術を開発するとともに、既存の治療法の再評価を行うことにより、国民に対してより適切な医療の提供を目指す。

<新規課題採択方針>

免疫アレルギー疾患に影響を与える要因及び治療法、診断法に関する研究等

研究費の規模：1 課題当たり10,000千円～50,000千円程度（1年当たり）

研究期間：3年

新規採択予定課題数：14 課題程度

<公募研究課題>

(1) アレルギー疾患

- ① アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）の既存治療法の評価と普及に関する研究 (17220101)
- ② 高齢者気管支喘息に対する適切な診断法と治療管理法の確立に関する研究 (17220201)
- ③ アトピー性皮膚炎患者の生活環境とQOL向上に関する研究 (17220301)
- ④ 小児アトピー性皮膚炎と成人アトピー性皮膚炎の病因・病態・悪化因子の相違に関する研究 (17220401)
- ⑤ アレルギー性疾患発症機序における衛生仮説の検証に関する研究 (17220501)
- ⑥ 日常臨床において使用可能なアレルギー性炎症の臨床的指標の確立と治療効果の検証に関する研究 (17220601)
- ⑦ ガイドライン普及のための対策と、それに伴うQOLの向上に関する研究 (17220701)

(2) リウマチ・免疫疾患

- ① 関節リウマチ患者を対象とした多施設共同データベースの構築と疫学研究システムの確立に関する研究 (17220801)

- ② 関節リウマチの原因究明に基づく根治を目指した新しい治療法の開発に関する研究 (17220901)
- ③ リウマチ性疾患患者のQOL向上に関する研究 (17221001)
- ④ 感染によるリウマチ性疾患発症・増悪機序の追求に関する研究 (17221101)
- ⑤ 関節リウマチにおける外科的治療の検証に関する研究 (17221201)
- ⑥ 免疫疾患の病態解明と免疫抑制療法等先端的新規治療法に関する研究 (17221301)
- ⑦ 免疫疾患の既存治療法の評価とその合併症に関する研究 (17221401)

<備考>

なお、研究計画書の提出に当たり、以下の点も留意すること。

- ① 「7. 研究の目的、必要性及び期待される成果」につき、より具体的に把握するため、申請研究終了時に期待される成果と、研究分野の長期的な成果（目標）とを別々に示すこと。
- ② 「11. 申請者の研究歴等」につき、より詳細に把握するため、以下のア及びイの項目に該当する論文（全文）の写し3編を添付した研究計画書を1組として20部提出すること。欧文のものについては日本語要旨も添付すること。
 - ア 申請する課題に係る分野に特に関連するもの。
 - イ 申請者が第一著者、もしくは主となる役割を担ったもの。後者の場合はその簡潔な理由を添付すること。
- ③ 申請者は、主任研究者及び分担研究者の研究内容が、他の研究課題と重ならないよう研究計画書を作成すること。

11. こころの健康科学研究事業

<事業概要>

うつ病や統合失調症、睡眠障害等のこころの健康問題及び筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病等の神経・筋疾患に対して、データの蓄積と解析を行い、心理・社会学的方法、分子生物学的方法等を活用し、病因・病態の解明、画期的な予防、診断、治療法等の研究開発を推進する。

<新規課題採択方針>

近年、重要性が注目されているこころの健康の問題、精神疾患及び神経疾患等について、最先端バイオ・メディカル技術の活用、疫学調査による病因・病態の解明、予防・診断・治療に関する研究開発等、最新の医学的知見を施策の企画・立案及び実施に反映するための研究開発を実施する。

研究費の規模：1課題当たり10,000～50,000千円程度（1年当たり）

研究期間：1～3年

新規採択予定課題数：17課題程度

<公募研究課題>

（こころの健康科学分野）

- ① 発達障害（広汎性発達障害、ADHD、LD等）に係る実態把握と効果的な発達支援

手法の開発に関する研究

(17230101)

② 精神医療に係る患者の利用実態や機能等の評価及びその結果の公開に関する研究

(17230201)

(留意点)

精神保健医療福祉の改革ビジョン（精神保健福祉対策本部；平成16年9月）における以下の記載内容を十分に勘案すること。

<当該改革ビジョンの該当部分>

オ 患者への情報提供と精神医療の透明性の向上

- 当面、地域において中核的な役割を担うべき国公立病院について、患者の利用実態や機能等に関する一定の評価軸を設け、その結果を公表する等の新たな取り組みについて研究に着手する。

③ 重度精神障害者に対する包括的地域生活支援プログラムの開発に関する研究

(17230301)

(留意点)

当該プログラムの効果の明確化及び医療経済学的な検討に関する研究を含むこと。

④ 精神疾患の病態解明と画期的な治療法の開発に関する研究

(17230401)

(留意点)

統合失調症や気分障害などを対象とし、遺伝子解析やプロテオーム解析の分子生物学的手法を用いて病態を解明し、その成果を薬物療法やその他の画期的な治療法の開発に応用する研究であること。

⑤ 精神疾患の定量的、画像的検査・診断法の開発に関する研究

(17230501)

(留意点)

統合失調症や気分障害などを対象とし、SPECT、PET、NIRS、fMRIなどの画像検査法や、生物学的マーカーなどによる定量的検査法による画期的診断法の開発を目指す研究であること。

⑥ 双生児法による精神疾患の成因解明のための研究

(17230601)

⑦ 心神喪失者等医療観察法制度における専門的医療の向上に関する研究

(17230701)

⑧ 思春期のこころの健康問題（ひきこもり等）に関する研究

(17230801)

(留意点)

コホート研究による疫学調査、行政的アプローチ（システム研究）に関する研究を優先的に採択する。

⑨ その他、こころの健康に関する保健福祉施策の企画・立案及び実施に資する研究であって、重要性及び緊急性が特に高いもの

(17230901)